

3.7%であった。変形性脊椎症の X 線上の変化の程度を、われわれは Osteophyten の形から 4 型に分ち、これを各椎体ごとに加算した値によつ表現した。この指標と、本症患者の年齢、性、職業、主訴および現病歴、現症との関連を検討した。症状特に運動開始時の腰痛, Morgensteifigkeit, Klima Beschwerden は高度変化例では逆に比較的少ないので、日常生活状況および痛みの強さを 4 度に分け骨変化の指標との関係を見るに、必ずしも Osteophyten の程度とは相関性のないことを認め得た。

さらに本症患者には高血圧 (K. W. II 型以上が軽症も含めて 50%), 高 Cholesterol 血症, 糖尿出現例の存在を認め、したがって全身的要因、特に脈管系自律神経系および代謝異常も示唆されるものである。

#### 16) 変形性脊椎症の研究 (第 1 報)

##### その 2. 骨棘形成と椎間板変性

千大整形 井上駿一, 三橋 稔,  
村田忠雄  
千大大学院 村山憲太, 柳生陽久,  
松井宜久  
千葉労災病院 谷口 滋

“Spondylosis deformans”に見られる骨棘形成度と椎間板変性に関し主として X 線学的検討を行ない、かつ病理学的な検索を加えた。椎体高位別、左右別、さらに椎体における骨棘以外の単純 X 線変化、椎間腔における Vacuum phenomenon, 狭窄などの変化との相関性につき検討を行なつた後、7 症例の種々の骨棘形成度を示す 16 椎間板に Discography を施行した。その結果、椎体前上縁骨棘基部への造影剤侵入所見、注入時抵抗のきわめて小なることおよびいずれも深部腰痛を注入時疼痛として訴えたことが共通所見であった。さらに病理解剖例より椎間板 Crack が前下方へと延び、椎体前上縁前縦靭帯線維輪移行部より異常な骨増生の行なわれたことが示され、また「骨棘形成準備状態」とでも称すべき椎体前上縁に不規則さなみ様変化を示す症例に対し行なつた Discogram 所見の同部への侵入像はきわめて興味深い所見と考えられ、椎間板変性の先行を示すところと考えられた。さらに仙腸関節、腸腰関節異常硬化所見の出現例の多いこと、頸椎における変形性変化の合併例を 50% に認めたこと、また Forestier 氏病への種々の移行型を示すものなどについても今後の検討点と考えられ変形性脊

椎症が椎間板を中心とした一つの Syndrome 的な要素をもつ種々の亜型に分類しうることを述べた。

#### 17) 高圧室の医学的利用

##### ①高圧室内における本邦最初の手術症例報告

労働福祉衛生会労災協会病院

斎藤春雄, 宮本邦夫, 太田幸吉,  
三枝俊夫, 島田哲男, 守田博之,  
村上幸男

潜水病治療に出発した独自の気圧療法により過去 13 年間に延べ 8 万人に及ぶ内科的治療経験を、その間の基礎的研究結果から陰圧陽圧併用の 2 気圧以下の気圧構成でも気圧上昇時の出血時間の短縮、出血性ショックの予防、回復、輸血量の節約など手術に際し多くの利点のあることを知り、81 才老婆の右上腕骨々折、および救急車にて運ばれた限局性腹膜炎を合併した虫垂炎患者につき昭和 41 年 6 月 12 日と 6 月 27 日局麻および全麻にてわが国では初めて高圧室内での手術を経験し有意の成果を収めた。今後、頭部外傷その他多くの疾患の手術に、また重症患者の手術に大いに利用できるのではないかと期待される。

#### 18) 高圧室の医学的利用

##### ②高圧室内における基礎的臨床的研究

労働福祉衛生会労災協会病院

斎藤春雄, 宮本邦夫, 太田幸吉,  
三枝俊夫, 島田哲男, 守田博之,  
村上幸男

各種難治性慢性疾患に対し 1.7 気圧, 90 分間, 週 2 回加圧すると良好なる結果をみる症例があるが、その治療機序を解明するため加圧による尿量、尿比重、尿中電解質、好酸球などの変動と腎および副腎の変化を検索せる結果、気圧の変動が一種のストレスとして作用し、その累積が副腎を肥大せしめて各種腎系ホルモンの分泌亢進をきたすことが認められた。一定量 O<sub>2</sub> の反覆再呼吸による意識混濁までの動脈血 Hb-O<sub>2</sub> % 曲線を各種の気圧条件下に比較すると 2 気圧下では大気圧下より低酸素症が進行し難いことが判明した。昇圧時、出血時間は短縮し術中出血量も減少する傾向が認められた。加圧時には各種細菌の増殖抑制効果が観察された。